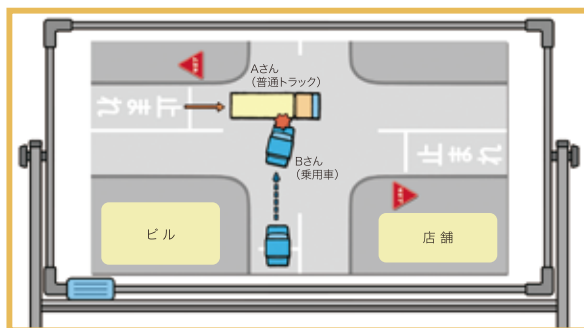


事故事例をもとに安全運転のポイントを紹介。社内での安全運転活動にお役立てください。

事故に
至るまでの
状況

Aさん(男性、普通トラック、30代)は、個別配達で初めて通る住宅街の往復2車線道路を走行していました。1軒目の配達が終わって、「次の配達先は先の方に見える信号を右折したところだな」と、その信号機を見ながら運転していました。すると突然、右側から衝撃があり、Bさん(男性、乗用車、20代)と衝突。その時、「ここは、信号機のある場所よりも手前にある交差点だった」と気がついたのでした。

事故現場
略図



事故の原因

この事故は、「一時停止義務がある信号機のない交差点」での出会い頭事故になります。Aさんは、配達先の地理に慣れていないため、曲がらなければいけない先の信号交差点にばかり気を取られていました。それにより、手前にある一時停止の路面標示や標識を見落と

していたことが事故の原因です。一方Bさんも、通勤でよく通る道で事故の多い危険な交差点と承知していたにもかかわらず、こちらが優先なので相手は止まるだろうという思い込みから、手前で安全な速度に減速せず、左右の安全確認なども怠っていました。

安全運転に向けて指導のポイント

左右の見通しが悪く、交差道路が見えづらかったりすると、直線道路と勘違いすることがあります。よく見ると交差点だと分かるのですが、思い込みが強く運転に集中していないときなどは陥りやすいエラーです。今回のAさんも、次に曲がる交差点を強く意識しすぎて、周りが見えていなかったため、手前の交差点を

見落としてしまったと思います。運転席に座ったら一息ついて視界を広げ、気持ち運転モードに切り替えてから運転するように心がけましょう。また、こちらが優先だとしても左右確認、安全確認は怠らないようにしてください。

今月の安全メモ!

- ・運転前に一息ついて、気持ちを運転モードに切り替えよう!
- ・優先道路を走行中でも左右確認、安全確認をしっかりと!